

(1) 日本の実務家及び公認会計士はどう構えるべきか？

これから連載で、IFRS の哲学(考え方)について、英語のキーワードやキーセンテンスをあげながら、お話していきたいと思う。

第 1 回は、本論に入るための前文のようなものである。

「IFRS に対してどう対応すべきか」という問いに対して、金融庁、経済界、経理の実務家、会計専門家等の中で、実に様々な反応が巻き起こっている。日本の公認会計士業界の中でも「何とかなるだろう」派から「非常に深刻だ」派までいると思われる。ここでは、日本の公認会計士が IFRS に対してどう構えるべきか？について二つの両極端の考え方をあげ、意見を述べておきたい。

- A IFRS と言っても、現在の日本の会計との差異はそれほど大きなものではなく、部分的な差異を調整していけば、やがて対応できるようになる
- B IFRS は原則主義で、ルール主義に基づく従来の日本の会計基準の知識、経験は役に立たない。また、今後英語で IFRS を読めない公認会計士は生き残れない

A,B のいずれの見解も非常に有力である。いずれも真理を含んでいるが、いずれも「危険」な考え方であると思う。

正しい構えはどうあるべきか？それは次のようものであると思う。

- a. 日本において積み重ねられた研鑽や実務経験は、IFRS を理解し、これに対応していくための重要な基礎となり、手がかりとなる
- b. IFRS を、その哲学から理解することは、日本の諸基準、実務経験を原則に戻って見直し、会計判断の考え方を IFRS 流に組み替えていくために必須である。そのためには、キーワードやキーセンテンスの英語を理解することが不可欠になる。ただし、英語の解読は、市販の辞書を駆使すれば十分可能であり、日本の実務家及び公認会計士の大半は十分理解できる。

これからレクチャーしようとすることは、正確に言えば「辞書を頼り」に「英文で読む IFRS の哲学」ということになる。

(2) EXPECT・・・言葉の理解

IFRS が「原則主義」であるということは耳にたこができるほど聞かされていると思う。今後逐一その事例をあげていくこととするが、原則主義という意味は、実際にはどういう意味なのかを、一つの言葉を例として、それがいかに「英語」の理解と結びついてくるか、を述べておきたい。

IFRS の冒頭に「Framework」(「概念的枠組み」と約されている)がある。Framework の位置づけは、日本とも米国とも異なっており、極めて重要なものなので、次回以後に説明していくが、ともかくその中に“The elements of financial statements”(財務諸表の諸要素)という項目があって、そのパラグラフ 49 から 52 までが Financial position、そこで「資産、負債、エクイティ」が定義されている。

資産の定義は、次の通りである。

An asset is a resource controlled by the entity as a result of past events and from which future economic benefits are **expected** to flow to the entity.

これは、下記のように訳せる。

「資産とは、過去の事象の結果として特定の企業が支配し、かつ将来の経済的便益が当該企業に流入すると期待される資源をいう」

負債でも同じように expect という言葉があるが、こちらは「(資源が当該企業から流出すると)予想される」になっている。

ここで、「期待される」あるいは「予想される」と訳された expect という用語に注目して欲しい。

この「期待される」という用語は、例えば貴方が「明日は恋人が会いに来ると期待する」と言う際、「来たらいいなあ、でも来ないかも知れない」程度なのか「当然会いにくる」と思われるニュアンスなのか？ここが問題である。

📖 ここで辞書を引いてみよう。

リーダーズ英和辞典では次のように出ている。

1. 予期する、予想する、あてにする
2. (当然の事として)期待する、することを期する、求める
3. と思う

とある。これだと良く分からない。

ジーニアス英和大辞典だと次の通りである。

1. 人などが、(人、事、物)を(十分な理由があつて)予期する…
2. (当然のこととして)期待する
3. ~だと思ふ

とあり IFRS で定義の中で述べられている expect は「きたらいいなあ」ではなく、「十分な理由があつて」「当然くるべきものがある」というニュアンスかなあということが分かる。

📖 コウビルド英英辞典で expect を引いてみよう。

1. If you expect something to happen, you believe that will happen
2. 省略
3. If you expect something, or expect a person to do something, you believe that it is your right to have that thing, or the person's duty to do it for you.

つまり、expect するとは、ある事が起きることを「信じている」ということであり、他人に expect するというような場合には、それがあなたの「権利」であり、あるいはそれをなすのが相手の「義務」であると、あなたが信じているという事になる場合さえあるのである。以上で expect についてのお話は終わる。

「そんな抽象的なことはどうでもいいじゃないか」「IFRS の基準書を見ればそれぞれ具体的な資産の計上基準が出ているじゃあないか」と言うかも知れない。しかし、実は、IFRS の Framework は、「(このフレームワークは)国際会計基準において未だテーマになっていない事象に国際会計基準を適用して、財務諸表を作成することを assist する目的」「監査人が、財務諸表が国際会計基準に準拠しているかどうかについての意見形成を assist する目的」があるとしており、IFRS の基準書において明示されていない事柄については、必ず Framework に戻って判断することが要請されている。

さらに、フレームワークに限らず、個々の基準書の記述自体、かなり抽象的な言葉や文書でできていることが多い。expect 以外にも重要な言葉は多数存在する。例えば probable, reliable, potential などなど。

そうしたやや抽象的な言葉や文書を具体的な場面に適用すること、それが「原則主義」である。その際、英語では何気なく使用している言葉やセンテンスの意味を十分理解することは、IFRS の原則を理解する役に立つことは間違いない。

今回は、Framework を取り上げて、そのキーワードを解説していく。